
happy birthday

零詩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

happy birthday

【コード】

N0468H

【作者名】

零詩

【あらすじ】

誕生日、それは誰にとっても大切な宝物。そしてこの彼にも……

雨が降っていた。

憂鬱だ。ぼんやりと家の二階のベランダから、他の家の屋根を眺めていた時だ。

びるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

と、今の人にしては珍しい黒電話の音が彼のポケットから流れていた。

そして外を見つめる目を離さないままで、電話に出た。

『もしもし？　　？　今ヒマ？』

と、下つたらずな、彼のクラスの女の子。彼とは仲が良い女の子だ。彼女は彼の『……』を肯定と理解したのだろう、話を続ける。

『あのさ、今から駅前のカラオケボックスの25号室に来てよ！それじゃあね！』

と告げそのあとにはツーツ、ツーツと電子音が耳に聞こえた。

彼は電子音がたつぷり6回なつたところで電話を切って、一つ小さくため息をついた。

そして風で飛んできた雨に当たって濡れてしまったTシャツを脱いで、着替える。

そして、玄関を出るとき今はもう誰もいないこの家に小さな声で『いってきます。』と答えて、紺色の大きな傘をさして、駅前のカラオケ店を目指す。耳にイヤホンをつけて好きなグループの一番好きな音楽をバックミュージックにすると、雨音もリズムが良く聞こえて好きになる。この時刻、通勤のサラリーメンが行ってきますをしている時刻や、サラリーメンがただいま、と言っている時間でもない、微妙な時間のおかげであまり人とすれ違わない。時折わざわざ

犬にレインコートを着させているおばちゃんと、すれ違っぐらいただ。

駅まで家が近いための、音楽のおかげで時間を忘れてしまったかどうかは分からないが、思ったよりは早く着いた。最近出来た駅前のでっかいカラオケボックス。その25号室と言ったら、その中で一番大きな部屋ではないか。何をやる気なのだろう。大勢で打ち上げか？とも思ったが、最近打ち上げるほどのことも起きてはいないし、今後も秋の運動会ぐらいしかそんなことはないだろう。そう考えて、そのあとは考えることをやめた。

そこにつくと、レジ担当の女の人に、
様でございますか？
と尋ねられた。即座に『はい。』と答えると、ガバッと後ろから何かの布のようなもので目隠しをされてしまった。今更驚く気にもなれなかった。

おそらく25号室と思われる、部屋の前に立たされて、部屋に入られる。そうすると即座に、

ぱんっ ぱんっ ぱぱぱぱぱぱぱっ

と、クラッカーの音がした。もう目隠しは外された。中には彼女と10人ほどのクラスメートが仲良くクラッカーを撃っていた。

彼女が近づいてきて、『これやるのに、いくらかけたと思う？』
と、いたずらをした子供の様な顔をして問いかけてみる。俺は答えようとしたけど、即座にその機会を失った。

唇を唇でふさがれたからだ。

彼女は微笑みながら、『大好き。そして、happy birth

day』と答えた。

(後書き)

えっと、あとがきを書くのは初めてになります。はじめまして、ゼロ詩ウタです。

本日、ボクの誕生日だったわけで、これを書いたわけなのですが、どうぞ楽しんでみてください。それがボクにとって最高のプレゼントだと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0468h/>

happy birthday

2010年12月17日02時43分発行